

（１）共働のきっかけ・必要性

- 福岡市は全国的に見ても街中に豊かな緑地を守り残してきた自治体ですが、緑地の中には管理放棄によるヤブ化、不法投棄などが見られる場所もあります。
- これらの緑地は十分な管理があれば、市民の憩いの場や間伐材の利用など、身近な自然を享受できる場になります。
- 管理者である福岡市と保全・活用のノウハウを持つ NPO 法人グリーンシティ福岡の共働により、現在の福岡市にあった里山的な緑地の保全・活用を試行、展開しています。



（２）事業目的

特別緑地保全地区等をフィールドに、里山的な利活用の楽しさや技術を伝えること、近隣住民の合意を形成していくこと、それを支援する制度のあり方を検討することで、街中の緑地を現代の里山として再生することを目的としています。

（３）事業目標

初年度は「現在の利用状況の把握」「プログラム開発と試行」「活用ガイドラインの検討」を行い、成果指標を「活動団体数」と「市民の参加機会の増加」としました。イベント数は目標を超えボランティア参加者は得られたものの自立的な活動団体の立ち上げには至りませんでした。

成果指標	事業実施前	目標	実績
福岡市内の特別緑地保全地区等で活動する団体数	約 10 団体	+2 団体	+0 団体
（同上）での市民が参加可能なイベント等の回数	約 40 回	+10 回	+13 回

（４）事業内容

1. 利用状況調査事業

○市内緑地で活動する既存団体にヒアリングし、活動状況と課題を整理しました。



2. 活用プログラムの開発と試行事業

○植物園里山ボランティア：南公園での保全活動（8 回／62 人）とイベント出展（クラフト 143 個頒布）。



○平和南の森づくり：平和南特別緑地保全地区で、観察会、体験作業（計5回／70人）と造園業者による枯れ木処理作業（1回／12人）を行いました。



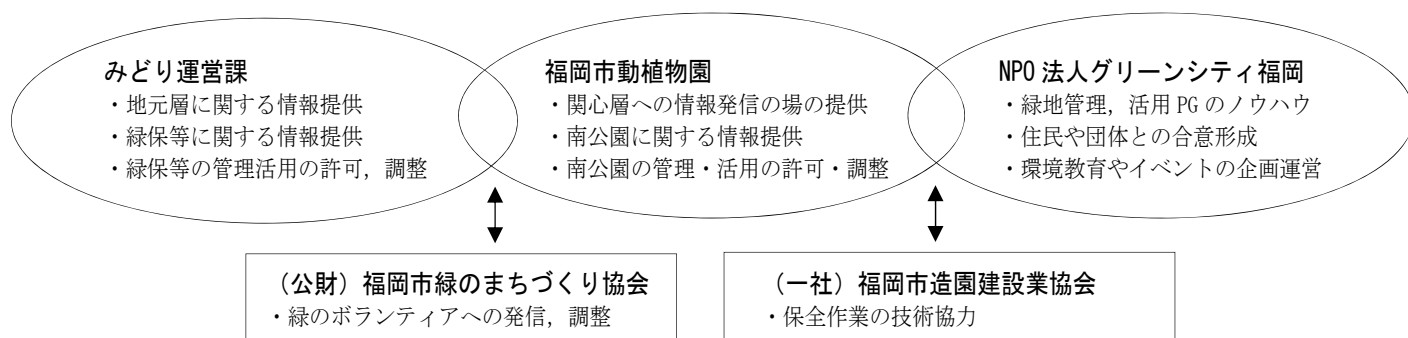
3. 活用ガイドラインの検討事業

○一般市民に緑地の保全・活用を呼びかけるパンフレット（活用ガイドライン）を作成しました。

<「まちなかの森にでかけてみると」内容抜粋>

- ・森の楽しみ方「森を歩こう」「生きものに会う」「雨の森の魅力」「森の手入れ」
- ・森の現状「どんな木が生えてるの?」「今、森はどんな状態?」「森林ボランティア活動って?」
- 「福岡市の森」「森の様々な働き」
- ・活動をはじめたい方へ「Q&A」「連絡先と参考サイト」

（５）NPOと市の役割分担



（６）担当者の声・市民の声

○担当者：せっかく市内にこれだけの緑地が残されているが、それを知る人が少なかったり、荒れた状況になっていたりする点を残念に思っていました。より市民に愛される森を育てていきたいと思います。

○担当者：樹木の生長による倒木のリスクが高まる等、これからの緑地管理には様々な課題があります。より多くの市民やNPO等との共働によって、これからの緑地管理を検討、試行していきます。

○参加者：「もっと頻繁に参加したい」「子どもを連れてくるので、森がきれいになり安心」「草刈りなどいつでも協力します」「焚き火体験はなかなかできない」「森のこと知れてよかった」など。

（７）翌年度への展開

○体験や作業を通じてボランティアの募集や人材育成を行なっています。そのため令和元年度から3年間の継続を前提に取り組みを進めています。

○令和2年度以降は新たに対象地を増やしての「活用プログラムの開発と試行」、初年度の検討をもとにした「活用ガイドラインの普及」、既存の活動団体等を対象にした「活動団体の支援事業」を計画しています。